

CNTマスターバッチ

森六、中国市場を開拓

高分散性に強み 現地生産も視野

森六は、高分散カーボンナノチューブ(CNT)マスターバッチで中国進出を狙う。CNTマスターバッチの用途開発を進めるとともに、販売拡大に向けて中国でのマーケティングを強化している。CNTの分散でパートナーとなる現地企業もめどをつけた。まず日本からの輸出を目指し、将来的には現地生産も念頭に置く。中国では複数のメーカーが他の市場に先行してCNTの実用化に取り組んできた。一般的な課題である分散性の悪さから採用に慎重な姿勢も浮かがるが、森六は分散技術の高さや導電性、柔軟性といった強みを訴求し、数年単位で市場開拓に取り組んでいく。



CNTマスターバッチを添加した導電シリコンゴム押出品

CNTマスターバッチはさまざまな樹脂に練り込むことで導電性や熱伝導性、フレキシブル性、磁性、電磁波シールド、電波吸収などの機能を付与できる。森六はパートナー企業との連携し、多層の高分散CNTマスターバッチの研究・開発を行っている。

現在、樹脂やフィルム、ゴムなどのメーカーへのサンプル供給を多数実施している。採用が決定しているうち1社には、ガasket向けに供給。従来は別の導電性材料が入った導電ゴムでガasketが作られていたが、森六のCNTマスターバッチを添加することで柔軟性を付与できる。実用性の例として他社にもアピールする。また、ウエアラブル関連やロボット関連のほか、半導体の製造工程で使用されるクリーンルームのシーリング材

向けに提案を行う。用途開発が進む一方で、販売拡大が目下の課題となっている。そこで森六は中国の市場規模に目を付け、同市場でのマーケティング活動に乗り出した。中国ではCNTの生産量が多いが、樹脂への添加を試しても分散性の悪さから発生する偏りなどもあり、本格採用には二の足を踏んでいるケースも多いという。

森六と片野ケミカルズは、少量のCNTマスターバッチの添加で分散性の悪さを解決する製法を開発し、ダマを発生しにくくすることで導電性を向上させた。高分散CNTマスターバッチをシリコンゴムに練り込んだ「柔らかい導電ゴム」も提案中だ。森六はこうした強みを中国市場にアピールするため、現地企業との面談を積極的に働きかけていく。まずは日本からの輸出に向けて製品の研究開発も行い、将来的には現地生産を視野に入れ活動を強化していく。